

復興に向けた取り組みや国際交流・協力団体の活動、外国出身県民の声など、福島県の「今」を多言語にてお伝えしています。

※本紙の翻訳版は、当協会 HP からダウンロードできます。



Voices from Fukushima

福島の復興状況を世界に発信 米から移住 スティーブ寺田さん (ハワイ州ホノルル出身・福島市在住)

スティーブ寺田さんは、祖父母が熊本県出身の日系3世アメリカ人です。今年3月、スティーブさんは原発事故に伴う風評被害払拭の一翼を担いたいとの思いから、妻のジャッキーさんと共に福島市に移住しました。

県内各地へ赴き、精力的に活動するスティーブさん。移住を決断した経緯や今後の活動などについてお話を伺いました。(インタビュー日：2019年5月28日) ※インタビューは英語で行いました。



-福島での生活はいかがですか？

忙しい日々ですが、妻も私も福島を大いに楽しんでます。

-移住に至るまでのお気持ちをお聞かせください。

ボランティアで訪れた2011年6月以降、福島のごことは常に頭の片隅にありました。

震災直後、米国政府は軍関係者に対し、福島第1原発から80km圏内の原則立入禁止指示を出していました。私は、支援のため福島に入ったのですが、米軍職員であったことからその指示に従わざるを得ませんでした。たった1日で福島を離れなければならなかったことは、その後もずっと心残りとなっていました。

2018年に米陸軍工兵隊を定年退職し、同年5月に福島への再訪ができませんでした。妻と私は、その旅で福島をすっかり好きになってしまいました。そして、その翌月には福島への移住を決断しました。

-2018年5月に来福の際にはどちら

を訪問されたのですか？

福島第一原発周辺を含め、2週間かけて福島県のあらゆるところを巡り、さまざまな人に会いました。そのときに震災後7年経過してもなお、風評により生活再建がままならない人が未だに多くいることを知り、助けになりたいと思うようになりました。

-これからの活動についてお聞かせください。

観光、農業、漁業、避難区域、第一原発、復興…これらの切り口で取材、執筆し、今夏以降、定期的に記事を発信していきます。

-執筆のほかに講演も行う予定とか。

現在予定しているのは、東京とアメリカの大学院、そしてハワイのいくつかの県人会でのスピーチです。

また、県内外の国際交流関係機関や外国出身コミュニティでも復興についてスピーチを行いたく、ぜひとも機会をいただければと思っています。

-ハワイの方々の反応はいかがですか？

放射線の影響を心配した友人たちは、移住の話にとっても驚いていました。しかし、福島の情報に触れるにつれて、福島が置かれている状況に理解を示すようになりました。

海外では、福島がどのような復興の道をたどっているのか、あまり報道されていません。クローズアップされるのは原発周辺の状況のみで、日常生活が戻っている地域のごことは伝えられません。そのため、世界の福島への認識は事故直後のまま止まっているように思います。

-読者の方に何かメッセージをお願いしますか？

オリンピックを翌年に控え、今年は非常に重要な年だと考えています。開催地として注目を集める今だからこそ、より丁寧に継続的に情報を発信することが求められます。

そのためにも、さまざまな人との繋がりを作りたとも思っています。私の活動に関心のある方がいらしたらぜひとも連絡をとっていただくと嬉しく思います。

外国出身県民も活躍・東北絆まつり（福島市）

東北地方の六つの祭りが共演する「東北絆まつり 2019 福島」が 2019 年 6 月 1 日（土）・2 日（日）福島市で開催されました。福島市のわらじまつり、山形花笠まつり、盛岡さんさ踊り、仙台七夕まつり、青森ねぶた祭り、秋田竿灯まつりが集結。2 日間で約 30 万人の来場者がありました。当協会の人材バンク登録者の皆さんは通訳案内係として活躍。また、在福島県ベトナム協会の皆さんはベトナム料理のブースを出展し、訪れた観光客の方々との交流を図りました。



地域資源を活かすイベント開催（会津若松市）

6 月 8 日（土）「すとう農産」でアイガモを水田に放飼するイベントが行われました。主催者の須藤ボンド垂貴さんは、現代美術作家で夫のリチャード・ボンドさん（スコットランド出身）と共に 4 年前から会津若松市で美術関連や農業関連のイベントを開催しています。この日は、関東からの参加も含む総勢 25 名がアイガモへの餌やり、水田への放飼を体験。交流会では、地元料理のほか、リチャードさん手作りのピザ窯で焼いたピザも振る舞われ、参加者は終始なごやかな雰囲気楽しんでいました。



本格蕎麦打ち体験（いわき市）

7 月 28 日（日）、いわき市国際交流協会の主催で蕎麦打ちと柏餅作りを体験するイベントが開催されました。中国、フィリピン、ネパール、日本の計 27 名が参加。参加者のひとり張萍さん（中国出身）は、「蕎麦の作り方を知りたくて参加しました。餃子の皮とは作り方が似ている部分もありますがやはり違います。切る作業が難しかったです。」と話していました。参加者の皆さんは、出来上がったばかりの蕎麦と柏餅を堪能した後、公園を散策、有意義な一日を過ごしました。



多言語による復興情報「ふくしま復興ステーション」

福島県の復興状況の最新データや食の安全・安心に向けた取り組み、福島を応援する方々の活動など 10 言語で発信しています。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/>

ベトナム語を新設しました

- 外国出身者のための生活相談窓口 -

英語・中国語・日本語

毎週火曜日～土曜日 9:00～17:15

韓国語・タガログ語・ポルトガル語・ベトナム語

木曜日 10:00～14:00

※第 4・5 木曜日は事前予約が必要

☎024-524-1316 ✉ask@worldvillage.org (相談専用)

情報をお寄せください

みなさまからのご意見や感想をお待ちしております。取り上げてもらいたい情報、Voices from Fukushima にご登場いただける県在住外国出身者の情報もお気軽にお寄せください。



発行者

（公財）福島県国際交流協会

〒960-8103 福島県福島市舟場町 2-1 福島県庁舟場町分館 2 階

☎ 024-524-1315 ☎ 024-521-8308

✉ info@worldvillage.org

🌐 <http://www.worldvillage.org>

Facebook <https://www.facebook.com/fiainfo>

Twitter https://twitter.com/fia_info